

矢作川水族館

調査団体名	： 矢作川水族館	団体代表者名	： 阿部夏丸
設立年	： 2007（平成19）年	対応してくれた人の名前	： 阿部夏丸
団体URL	： http://www.yahagi-aqua.com/index.htm		
活動拠点	： 家下川、矢作川	調査員	： 田中五月・山本薫久・國村恵子・村松憲吉
取材日	： 2014年12月8日	レポート作成者	： 田中五月

活動内容

魚類調査、外来生物駆除なども行うが、市民参加の川遊びイベントを毎年おこなっている。

- ・矢作川たんけん隊（泳いだり、潜ったり、流れたり。捕った魚はその場で食べる）
- ・矢作川さかな釣り大会（矢作川で釣れるアユ以外の魚が対象で、いろんな種類をつるのをきそう）

まずは、体験を通し、足もとの川にいる生きものを見てもらうこと、つかまえてもらうことが大切。そのために、軽トラを使った移動式の水族館を不定期に開催している。

キャッチフレーズ

市民と川をつなぐ、みんな川に来てよ。

会のモットー（何を大切にしているか）

- ・川の現状を正しく見る。（調査、研究だけでなく、釣りや遊びを通して生きものをちゃんと見る）
- ・行政、漁協、土地改良区、矢作川研究所など、河川管理者とちゃんとつながる。
- ・川の良い所を見つける。（悪い所は、誰でもわかる。川を好きにならないと、良い所は見つけられない）
- ・川遊びのおもしろさを伝える。子どもは、遊んだ川を忘れない。子どもと一緒に川で遊んだ青年が、子どもを連れてまた川に来る。「夏丸さん、昔あそこの橋の下で、おれ〇〇〇をたくさん捕ったよね！」阿部さんによると「この一言は、自然環境に対する不毛な議論より、ぼくは百倍価値があると思っている。」とのこと。

設立から現在に至るまで変化したこと

世間の川に対する見方が変わってきた。親子川遊びを始めた当初「あんな川に子供を入れて、病気にする気か」「気が狂っている」などと散々いわれた。一度は死んだと思われていた家下川も、自らの力（自然の再生力）で生き物が増えている（取材日にもガサガサをしたが、少しの時間で本当にたくさんの魚がとれる）。みんなで川遊びをすることで、それを知ってもらえたことは大きい。楽しく遊んだり、しつこく話をすることで、まわりの河川関係者がアユ以外の話も聞いてくれるようになった。

連携している団体・専門家・自治体など

矢作川研究所、矢作川漁協、土地改良区、家下川リバーキーパーズ、三河淡水生物ネットワークなど

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動（例：小仕事づくり、山村・森林資源活用など）

土地改良区と協力して水田魚道を作った。矢作川研究所に提案し、コンクリート水路に、水深のあるマスを作った。多くの河川管理者、市民グループなどと協力して、コンクリート水路に、草を植えたり、砂利を入れたりし、魚の産卵場所、越冬場所を増した。子供たちと本気で川遊びをし、川に関心を持つ子どもをふやしている。

現在直面している課題

やりたいことが多すぎる。しかしメンバーはすくなく、みな仕事が忙しい。

今後やってみたいこと

(これは水族館としてではなく、個人的な想いとのことだが)川で子どもともっと深く遊びたい。
以前、1歳の子供を連れて親が川遊びイベントに参加してくれたことがあった。オムツをつけたままその子は川に座っていた(紙オムツは水吸ってパンパン)んだけど、コネコネ何かを触っている。よく見ると、死んだ魚をずっといじくりまわしていた。子どもは死んだ魚とも、話ができる。そんな子どもたちに、大人が教えられることがあるだろうか。川での体験が思い出となり、遊んだ川がやがて、かれらのふるさとになれば、それだけでいい。

チームオリジナルの質問

<質問内容>子供と地元の川に着目するきっかけは？

<答え>

昔はBE-PALというアウトドア雑誌の関係もあり、四万十川やら何やら、遠い綺麗な川にばかり行っていた。地元の矢作川や家下川を見ていなかった。ある時、家下川で小学生が遊んでおり「お前ら、何やってるんだ」と聞くと、たくさんの魚をとっていた。地元の汚いと思っていた川にも本当にたくさんの魚がいることを子供に教えられた。

その他、伝えたいこと

川は難しい。

川をどういじったら、形状がどうなる、生きものがどうなるというのが、河川管理者も分かってないはず。阿部さん曰く「自慢じゃないけど、僕もよく分からない」。しかし、分からないのを理由にしてやらないっていう河川管理者が多すぎるのは残念。分からないなら知ろうとしよう。分からないなら試してみよう。こんな面白いことがやれる立場にいるのに。

でも、ある意味、川は簡単だ。川の魚は、ほっといても(エサをやらなくても)増える。川ガキは、ほっといても(おもちやを与えなくても)遊ぶ。

それが何でいなくなるんだろう？ 答えは案外、簡単なのかもしれない。

写真



↑取材&ガサガサした家下川



↑「ナマズが子魚をバクバク食っていた！」と嬉しそうに話してくれた夏丸さん



↑何はともあれ、まずはガサガサ



↑短時間でたくさんの魚がとれた、豊かな川



↑取材は川の土手で、場所が良かったからかたくさんの話をお聞きすることが出来た